

♡ 広報

かっめさ 5



シリーズ
すきです!勝沼町

若者たちが藤づるを奪い合う。大善寺藤切り祭りは勇壮な祭りとして名高い



お祭りに花を添えたかわいらしいお稚児さん

祭りが生み出す わが町のちから ～国宝大善寺「藤切り祭り」～

5月8日(日)に柏尾山国宝大善寺で「藤切り祭り」が行われ、県内外から大勢の観光客が訪れました。1,300年もの歴史を持つと伝えられるこのお祭りに、今年も大蛇をかたどった藤づるをめくり、壮絶な奪い合いが演じられました。

藤づるを持ち帰ると、願いがかない運が開けると言われ、われ先にとご神木にとびつく若者たちの勇壮な姿は、お祭りをいっそう盛り上げます。

勝沼に根付く伝統行事が、親から子へ、子から孫へと守り受け継がれ、活力あるまちづくりにつながるとういいですね。

C O N T E N T S

主な内容

特集・

次世代育成を考える…………… 2～4

スポット・

ミックス紙ってなあ～に?…………… 5

シリーズ・市町村合併を追って…………… 6

Pick Up生涯学習の広場…………… 7

地域みんなで子育てを



子どもの健やかな成長は、みんなの願い

特集・次世代育成を考える

子どもの笑顔は、いつ見ても、無邪気てかわいいものです。勝沼の次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ、よりよい環境で育ってもらいたい。子育てを地域みんなと考えていかなければなりません。

今回の特集では、赤ちゃんから小学校の児童を抱えるお母さんの声と昨年実施したニーズ調査など子育ての悩みや、楽しく子育てができるように、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

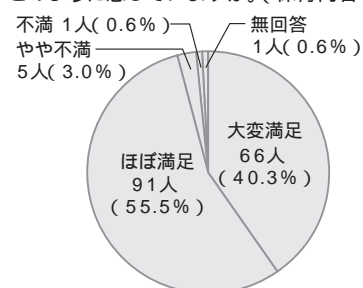
子育ては、相談できる相手を見つけないことが、とてもたいいせつです。町保健師は「子育てについての不安やストレスから子育てがつかなくなる人も多くいます」と話していました。

月一回、子育てのための集える場所として「なかよしキッズ」があります。これに、参加するお母さんに話を伺うと「子育てをするとき、相談する人がいなく不安もありましたが、このグループに参加して、今は子どもともども友達ができました」と笑顔で話してくれました。

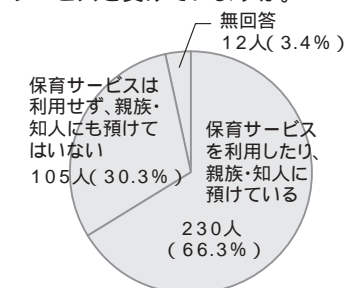
子育ては、大きな喜びである反面、赤ちゃん向き合い「どのよう子育てをしたらよいのか」と不安になるお母さんも多いのではないのでしょうか。

だれもがもつ
子育てへの不安

Q2. 今、通っている保育所(園)に対してどのように感じていますか。(保育内容)



Q1. 現在、おさんは平日に保育サービスを受けていますか。



就学前児童の保護者
(回答者数: 三百四十七人)

国では平成十五年七月に「次世代育成支援対策推進法」を制定しました。勝沼町でも、幅広く意見を取り入れた「勝沼町次世代育成支援地域行動計画」の策定を行うため、ニーズ調査を実施しました。結果の一部を、みなさんにお知らせします。

次世代育成支援アンケート



乳幼児健診などで、医師や町保健師と日頃の子どもの発達や育児相談などを行っています

「病気や発育に関する悩み」が三〇・八%

昨年度、町が実施した二丁調査で、「子育てに関する日ごろの悩みは何ですか」という問いに、就学前では「病気や発育に関すること」が三〇・八%でもっとも高く、次いで「食事や栄養に関すること」が二九・四%、「仕事や自分のやりたいことが十分でない」が二八%の順になっており、子どもの健康に対する心配の割合が高い傾向が伺えます。

また、子育てをする上で「とくに不安に思っていることは何ですか」という問いで

は「自分の自由な時間が持てない」が三六%、次いで「子育てで出費がかさむ」が二七・七%、「不安に思っていることはとくにない」が二五・八%という順でした。

勝沼町でも、年々核家族が増え、どうしても育児の中心がお母さんになってしまっています。心配ことが絶えず、赤ちゃんはどこが痛いとか、調子が悪いとは言えず、泣き続ける赤ちゃんに不安になってしまいます。

夫婦がともに喜びを分かち合える社会へ

勝沼ヒューマンプランでは「男女が共に力をあわせた生活の場づくり」を基本目標にしています。親子をとりまく環境を見つめなおしながら、女性も男性も家事・育児・介護などを行い、喜びも苦労も共に分かち合える家庭づくりに取り組んでいこうというものです。

家族一人ひとりの個性や生き方を尊重しながら、自立していく力を育むためには、夫婦、親子など家族の間で、性別や長男、長女といった順位による固定的な考え方を取り除き、女性と男性がともに協

力しながら助け合い、家庭的責任を果たすことができれば、すばらしいことです。町では、今後も男女がともに幅広い活動に参加しやすく、子育てへのよりよい環境づくりに取り組んでいきます。

ひとりで悩まずに いっしょに子育てを

「夜間に病気にかかったときに診てもらえる専門の小児科医が近くにいないことも不安です」という声を聞きます。日ごろから相談できる「かかりつけ医」を持ち、普段のようすを知ってもらつと、適切な診察を受けることができます。

町保健師は「子育ては誰でも不安なものですよ。育児相談や、各種健診のとき以外でも、気軽に相談してほしいです」と笑顔で話してくれました。

また、積極的にお父さんが子育てに協力することも、お母さんの不安やストレスを少なくさせるはずですよ。両親で楽しくお互いに支え合うことが大切なのではないでしょうか。



みんなが楽しみな給食の時間。栄養バランスや家庭と同じような雰囲気心がけている

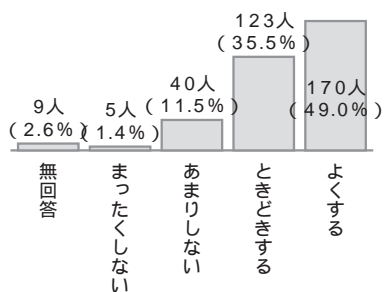
働くお母さんを 支援する保育施設

働いているお母さんにとって、仕事と子育ての両立は大変なことです。

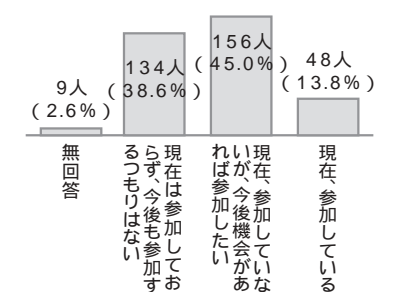
勝沼町には四つの保育施設があり、それぞれ歳から就学時までのお子さんを保育しています。共働きが増え、保護者が安心して働けるようにと、延長保育や一時保育、病後児保育などを実施しています。保護者は「子どもを保育園に安心して預けることができ、仕事もできます。食事も栄養面を考えてくれるので、保育園にとっても満足しています」と笑顔で話してくれました。

保育施設は、決して働くお母さんのための保育ではなく、子どもの教育に重点をおき、のびのびと心豊かな環境づくりをめざしています。

Q3. お父さんは、子どもの世話をしていますか。



Q4. あなたは子育てに関するサークルなど自主的な活動に参加していますか。



Q5. 行政に期待する子育て支援はなんですか。

- ・ 保育所(園)にかかる費用負担を軽減してほしい。
- ・ 子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい。
- ・ 安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい。
- ・ 児童館など、親子が安心して集まれる場所やイベントなどの機会がほしい。

放課後、ひとりぼっちの子どもが心配

小学生になると、子どもたちはどのように放課後を過ごしているのでしょうか。みなさんは気になりませんか。

小学生の放課後の過ごし方は、各家庭それぞれです。家庭に保護者がいれば安心して帰りますが、その反面「鍵っ子」のように子どもだけで保護者の帰りを待つ子どもたちもいます。核家族で共働きの家族では深刻な問題となっています。

今年、小学校に入学した子どもをもつあるお母さんは「仕事をやめることができずに、小学生の子どもをひとり



地域みんなで子育てを応援できる環境を

で留守番させています。とても心配で、仕事が終わると家に急いで帰ります」と話してくれました。

小学生の子どもを持ち、働いているお母さんは、お子さんが小学校に入学すると、仕事と子育ての両立が生活に大きく影響するようです。

学童保育に対するニーズが高い勝沼

町では、学童保育（放課後児童クラブ）を三力所開設し、放課後の子どもたちが集まる場所として提供しています。

働くお母さんと核家族が増え、共働き家庭や母子・父子家庭などが増えている現状で、小学校から帰った後の放課後や春休み・夏休み・冬休みなどの学校休業日には、親が仕事をしているために子どもだけで過ごしている家庭も少なくないはずです。

学童保育を子どもたちが利用して安心して生活ができることによって、親も仕事を続けられ、働くことができる環境と家族の生活を手助けする役割もあります。学童保育に通う子どもたちは、そこを生活を営むひとつの場所として学校から元気よく「た

だいま」と帰ってきます。家庭で過ごすのと同じように、ビデオを見たり、おやつを食べたり、友達とも遊びます。また、宿題もしたり、お掃除をしたり、学童保育は子どもたちにとって「放課後の生活の場」そのものなのです。

「働くことと子育てを両立したい」との願いも広がりが、「うちの地域にも安心して子どもを預けられる学童保育がほしい」という声はますます大きくなっています。

地域のかかわりをたいせつに

学童保育などが充実することで、すべてが解決するわけではありません。これからは子育てに地域が積極的にかかわることが大切なのではないでしょうか。

子どもを産み、育てやすい環境づくりを進めるためには、行政、企業、町民一人ひとりの理解と協力のもとに



放課後の子どもを受け入れる「学童保育」。現在、町内に3カ所開設

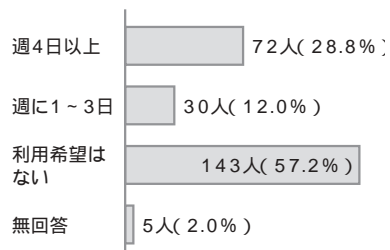
「社会全体で子どもを育てていく」という意識が必要です。

町では、昨年度「勝沼町次世代育成支援地域行動計画」がまとまりました。この計画をもとにみなさんがそれぞれの立場で、子どもたちの健全な成長に関わり、地域全体で子どもや子育て家庭への支援に積極的に取り組む必要があります。

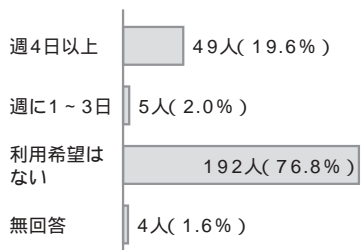
地域の人たちが子どもに気軽に声をかけあい、のんびり子育てができる環境こそが、今求められている子育て環境なのかもしれません。

小学校（三年生以下）
児童の保護者
（回答者数：二百五十人）

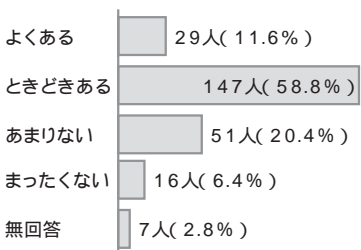
Q1. 放課後児童室・児童クラブなどの利用をしたいですか。



Q2. 平日、児童室・児童クラブなどを利用していますか。



Q3. 子育てやお子さんの成長・発達で悩むことがありますか。



ミックス紙ってなあ～に？

＝環境のために
私たちができること＝

環境問題は、地球温暖化のような世界的規模のものから、私たちの身近なごみの問題まで様々です。今、私たち一人ひとりが環境問題を考え、資源循環型社会への意識を高めていかなければなりません。

現在、町では分別収集を行っています。四月から新たに「ミックス紙」の収集を実施しています。今回は、分別収集の現状とミックス紙についてお知らせします。

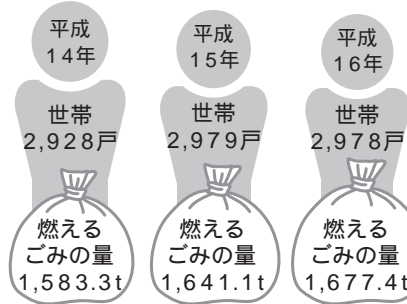
小さな努力が
大きな成果に

現在、勝沼町内から排出されるごみの七六・四％が「燃えるごみ」です。町では、分別収集によりリサイクルを推進していますが、燃えるごみの排出量は年々増加傾向です。

平成十六年度の「燃えるごみ」の収集量は平成十五年度に比べて、三六・三トンの増加。これは、一世帯あたり年



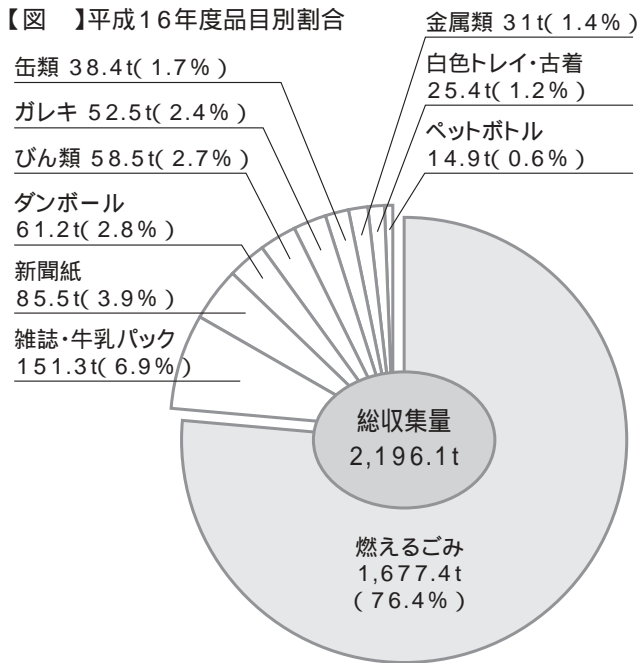
【図】燃えるごみ量の推移



間、約十二kg増加したことになります。(図)

一世帯あたりでは少ない増加量であっても、全世界帯では大量のごみになります。しかし、一世帯あたりで少しずつ「燃えるごみ」の減量に努めることにより、全世界帯にすれば大きな減量につながります。

【図】平成16年度品目別割合



勝沼町の燃えるごみは

年間約千六百トン

図を見てみると、勝沼町では平成十六年度に約二千二百トンのごみが収集され、そのうち、約千六百七十トンを燃えるごみが占めています。総収集量に対して缶類、金属類、びん類、ペットボトル、古紙類などはリサイクルされていますが、約七六％の燃えるごみはリサイクルすることができないといえます。

この燃えるごみをいかに減らしていくのがこれからの課題となり、そのうち紙類をリサイクルすることができれば燃えるごみの減量につながります。

四月から行われている「ミックス紙」の回収により、燃えるごみの減量と資源ごみの再利用を推進しながら、ごみ処理経費の軽減に取り組んでいます。

ミックス紙とは、ダンボール、新聞紙、雑誌などリサイクルに出していただいている紙類以外で、リサイクルが可能なきざまな紙類のことです。

リサイクル可能な

ミックス紙

事務用紙・封筒・コピー用紙・タバコの空箱(銀紙付き可)・名刺・ポスター・カタログ・手紙・はがき・ノート・シュレッダー紙・カレンダー・領収書・包装紙・手提げ紙袋・ジュースパック・手帳・パンフレット・レシートなど、汚れていない紙類です。

また、さまざまな商品の紙箱もミックス紙となります。さらに、カレンダーなどに付属している金具などは取り外す必要はありません。

ミックス紙として

出せない紙

紙おむつ、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、油紙、生理用品、紙やすりなどは、燃えるごみとして出してください。

「地区振興会(仮称)」を四地区ごとに設置

地域をめぐる環境は、都市化の進行や生活スタイルの変化により、地域のあり方が問われています。

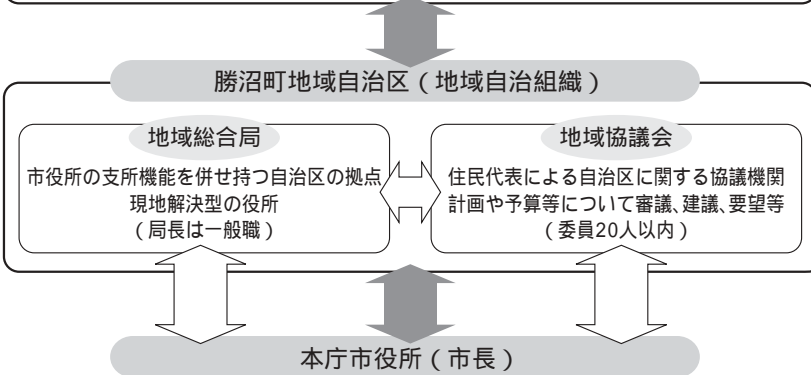
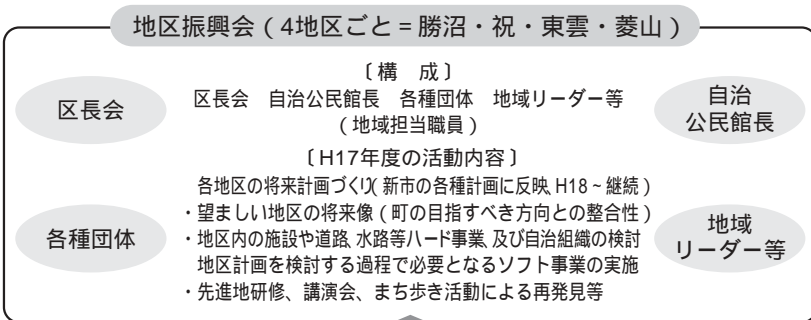
経済的な豊かさだけでなく、心の豊かさも求められ、自分の地域に誇りを持ち「このまちに住んでよかった」と思えるような地域づくりを進めていくことがたいせつです。

今年度、町内四地区ごとに「地区振興会」を設置していただき、平成十八年度から実質的な活動を開始する準備段階として、各地区の将来計画等、望ましい地区のあり方について検討していただきたいと考えています。

地域活動の強化へ

甲州市では、合併後も小さな自治をたいせつにしたまちづくりを進めるため、旧市町村単位に「地域自治区」を設けることとなっています。地域自治区は自治の拠点としての役割を担う現地解決型の役

「地区振興会」の目指すイメージ



所である「地域総合局」と、住民自らが地域づくりを考える「地域協議会」により構成されます。

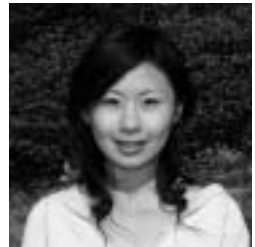
勝沼町における「地区振興会」は、この地域自治区を支える住民自治組織として、小学校区単位の地域ごとに設けることを想定しているもの

で、区長会や自治公民館をはじめとした各種団体の代表者により振興会を構成して、組織や活動計画などを考えていただきます。

町では、区長会および合併調査特別委員会において「地区振興会」について説明し、意見交換を行いました。

シリーズ 「甲州市」をめぐる探訪

今回は、4月24日(日)に大和村で開催された武田勝頼公祭りの様子など、東京の短大に通う渡辺友紀子さん(勝沼)に紹介していただきました。



大和村を紹介してくれた渡辺友紀子さん(勝沼)

JR甲斐大和駅前のロータリーが今年整備された。勇ましい「武田勝頼公之像」の前で、お友達と記念写真



守りながらお互い協力することによって、私たちの生活がより豊かになることを期待しています。

また、合併後も私自身ひとりの市民として勝沼の歴史や自然、ぶどう畑の景観などをたいせつにしていきたいと思えます。そして、勝沼の美しい風景がいつまでも守り受け継がれることを願っています。

私は、初めて大和村の「武田勝頼公祭り」を訪れたのですが、想像していた以上に会場はにぎわいをみせ、みなさんがとても楽しそうでした。

あまり大和村を訪れる機会というのになかったのですが、毎日学校に通う電車の中から大和村の景色を眺めていて、とても自然豊かな場所だと感じていました。また、とても歴史のある場所だという印象をもちました。

三市町村には、それぞれ違うすばらしい特色があると思います。十一月に合併しても、各市町村の特色を



「第40回ふるさと武田勝頼公祭り」が盛大に開催された

生涯学習の広場

KATSUNUMA

PickUp

甲州ぶどう太鼓も会場を盛り上げた



春風にワインの 香り漂わせ

五月三日（火）と四日（水）の二日間、ぶどうの丘で、「春風ワイン祭り」が行われました。噴水広場では、ワインの試飲・販売、ぶどう会や朝市会のみならず、ぶどうの特産物の販売などが出店されました。来場した、多くの観光客のみならず、ワインを片手に勝沼の景色を楽しみながらワインを味わっていました。



楽しそうに柏餅をつくる園児



端午の節句を祝い 園児が柏餅づくりに挑戦

五月六日（金）に東雲保育所と菱山保育所の園児が「柏餅づくり」に挑戦しました。季節の変わり目である端午の日に、柏餅を食べる風習は日本独自のものです。柏は新芽が出るまで古い葉が落ちないことから「家が絶えない」縁起物として広まっています。また、子どもたちがいつまでも健康やかに育ってほしいという願いも込められ、保育所で毎年行っています。この日、子どもたちは、柏餅づくりに挑戦し、出来上がるとおいしそうに口いっぱい食べていました。



参加者100名が真剣にテイスティング

第三〇回を記念して、今回は一般の審査員百名を募集。六十八社のワイナリーが参加し、審査員のみなさんは赤、白、ロゼを順にテイスティングしました。審査員となった一般の参加者は「ワインはよく飲みますが、こうして審査員として参加でき非常にうれしいです。これからもワインを追求していきたいです」と話してくれました。

山梨ワイナリー協会

「ワインの品質向上を目指して」

四月二〇日（水）にぶどうの丘イベントホールで山梨ワイナリー協会主催による「第三〇回ワイン審査会」を開催しました。

老人クラブ総会

いきいきといつまでも元気に

四月二十一日（木）に健康福祉センターで、勝沼町老人クラブ連合会定期総会が行われました。新会長となった早川泰正さん（等々力）は、「あせらず、気張らず、急がず継続的に取り組んでいくことがたいせつです。いつまでも元氣よく奉仕の心と地域活動に参加しながら自分づくりに励んでいきましょう」とあいさつをしました。総会后、落語家・伊達家酔狂さんの「笑いの中から健康づくり」、笑っていきいき落語が行われ、会場に集まった約百五十人の参加者は楽しい一日を送りました。



老人クラブのみなさんは楽しい一日を送った

保健師だより

マンモグラフィ検査について

町保健師 杉田 陽子

国の指針により、今年度から本町における乳がん検診の内容が大きく変わります。これまでの乳がん検診は、町立勝沼病院にて「乳房の視触診と超音波検査」を行ってきましたが、今年度からは原則として三十九歳以下のかたは「乳房の視触診と超音波検査」、四〇歳以上の方は「乳房の視触診とマンモグラフィ検査」を実施します。（乳腺が発達していると、マンモグラフィ検査では癌が写りにくくなるため、三〇歳台以下の方には超音波検査をお勧めしています。）

にも非常に重要なことですので、検査を受ける方はその点をご理解下さい。

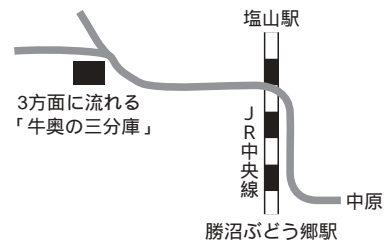
また、今年度から町立勝沼病院の他、山梨厚生病院、塩山市民病院でも検査を受けることが可能になりました。受診希望の方は町指定の受診票が必要になりますので、事前にお申し込み下さい。現在、愛育会のみ皆さんのご協力により、各地区で申し込みの取りまとめを行っています。愛育会を通じて申し込みました方には、後日、直接受診票を郵送します。その他の場合には、毎週月曜日（祝日の場合は翌日）に町民会館一階・健康相談室にて受診票を発行しますので、お越し下さい。

近年、乳がんにかかる方が急増しています。日本人女性の三〇人に一人は乳がん罹患するとも言われています。本町においても、ここ五年間の死亡統計で、女性の悪性新生物（がん）では肺がん、胃がんに次いで第三位が乳がんとなっています。早期に発見することで、大事に至ることなく完治する病気なので、これまで一度も乳がん検診を受けたことのない方は、特にこの機会に検診をお受け下さい。

マンモグラフィ検査とは、乳房専用のX線撮影装置を使った検査のことです。他の検査では発見が難しい小さながんを見つけることも出来ます。検査方法は、撮影装置の前立って乳房を片方ずつ台の上に乗せ、強く挟んで圧迫しながら左右二枚（二方向）ずつ撮影します。検査時間は一人につき一五分、二〇分程度です。乳房を圧迫するため多少痛みを感じますが、撮影部位の厚みを薄くすることでX線の被爆量を減らすことができ、良い写真を撮るため

シリーズ まだまだ残る 勝沼の近代化遺産

牛奥の三分庫



用水堰の水を均等に分けることは難しい。わずかな違いが稲作を行っていた頃には、争いの種になった。水を三分するととなるとさらに難しく、北杜市長坂町の「三分一湧水」は、見事な分水方法から名勝の一つとなり、その脇の公園や資料館まで整備されている。実は、勝沼町内ではないが、東雲山村を流れる用水をたどると「牛奥の三分庫」と呼ばれる見事な円形三分水に行き着く。場所は中原から牛奥に至る道と岩戸観音参道の交差点脇にある。コンクリートを使用していることから、大正時代に造られたとされるが、独創的分水法が用いられている。コンクリートの二重

=用水堰の水を分ける= 高い技術と幾何学的なアイデア

円の間を百二十度づつ三分し、中央の円から用水の水を噴水のように湧き出させ、三区画に均等に分かれるように、それぞれ画から用水堰が始まるようにしたもので、水平に流れる水を、パイプを用いて垂直な流れに変えて分水する幾何学的アイデアをだれが考えたのか、とんでもない発想の持ち主であったことは間違いない。

実際にこれが完成した時、関係する村々の人々は驚き、納得した様子が思い浮かぶ。現在にいたるまでこの分水点でもめごとは聞かないので、八〇年近く争いを鎮めた画期的な近代化遺産であるといえる。

（町教育委員会 室伏徹）



用水堰から水が均等に流れ出る

旬のアイデアメニュー料理

今月号から、「旬のアイデアメニュー」と題して毎月1品を紹介します。このメニューは、CATVでも実際に作り方を食生活改善推進員がわかりやすく紹介しています。みなさんもぜひ、お試してください。

《うどとみつばの卵とじ》

勝沼町食生活改善推進員会


材料(4人分)

うど	大1本	みつば	1束
卵	2個	油	少々
だし汁	150cc	砂糖	大さじ1
しょうゆ	大さじ1と1/2		

作り方

うどは、葉をとりながら皮をむき、太いものは縦半分に斜めに薄切りにし、水にさらす。

みつばは、4~5cmに切る。

フライパンに油をしき、熱し  を入れ、炒める。しんなりしたらだし汁を入れ煮る。煮立ったら(うどのシャキシャキ感を残す場合は、早めに、やわらかめが好みの場合はゆっくり煮る。)みつばを入れ混ぜる。

にときほぐした卵を入れ、ふたをし半熟にして仕上げ、出来上がり。

1人分: 94kcal



毎月定期的な会議で意見を交わす



エクトの活動が広まり景観を守りながら、行政と力をあわせ「まちづくり」につなげていきたいですね」と話してくれました。

真剣に作業に取り組む窪田会長

かつぬま文芸

川柳

ぶどうの実

もういいかい答えば彼岸花がゆれ
欲ばりの願いは星に届かない
ヘルパーの真似事しつつ夫と看る
わが道は迷いだらけの茨道

雨宮さらこ

ジんクスがまだ生きている過疎の村
さりげなく豊かに老いの身繕い
わが色に染めたい野望の世界地図
貧者の一灯集めて温い福祉の火

三森すみ江

絵手紙で管公様の梅日和
被災地で親子が歌う夕やけ小やけ
あの時の風がお嫁に来てくれた
笛吹けど踊らぬ木偶の下心

深沢 銀月

割り箸と歯で割るような妥協音
数え唄手毬は祖母の手に踊る
フラワーポットすこやかに咲く町の花
老人医療義歯幾度の噛み合わせ

佐藤 圭柳

輝くまちひと

勝沼の景観をいつまでも残したい

「勝沼ぶどう園通り」

プロジェクト活動中!



三月三十一日(木)春の昼下がり、勝沼横町地内を通りかかると、ぶどう棚の下で地域のかたが集まりワイン樽にペイントをする光景がありました。いくつかの樽に「勝沼ぶどう園通り」とペイントされ、作業する方は真剣な表情で取り組んでいました。作業する駒田真治さん、「これは勝沼ぶどう園通りプロジェクトの活動のひとつです」と...

毎月、定期会として会員十名が集まり話し合いや具体的な活動など、意見を交わします。窪田祐一会長は「勝沼の景観は果樹園により作られ、ぶどう棚の景観は観る人を喜ばせます。私たちは、ぶどう産地として今やるべきことを考え、自分たちも楽しみながら活動をし、次の世代にもこの勝沼の景観を残していきたいと考えています。そして、みなさんが町内をめぐり歩き勝沼を楽しんでもらいたい。個々の農家の力は小さなものでも、地域のみんなが力をあわせることにより、勝沼をいっそう美しく魅せてくれるはずですよ。このプロジェクトの活動が広まり景観を守りながら、行政と力をあわせ「まちづくり」につなげていきたいですね」と話してくれました。

町長からの手紙

合併後の地域のあり方、みんなで考えていただきたい

ぶどう畑に緑が戻ってきました。この時期になると、新緑のみずみずしい輝きが一面に広がります。気温の上昇に比例して、新梢がぐんぐん伸びるさまを見ていると、生命の躍動感に圧倒されそうになります。

合併まで、いよいよ半年を切りました。甲州市の特色でもある「地域自治区」の中身についての協議も、事務者レベルで進められています。支所の機能を併せ持つ自治の拠点である「地域総合局」と、各層の住民代表からなる「地域協議会」を両輪に、合併後も勝沼町がより輝いていけるよう、必要な態勢づくりを進めなければなりません。

今号でも紹介されていますが、本年度、町では旧村の四地区を対象として「地区振興交付金」を予算化しました。このため各地区に「地区振興会」を設置していただき、合併後の各地区の将来計画づくりに取り組んでいただきたいと考えています。検討会や研修会などのソフト事業を通じて、まちづくり意識の醸成も図っていただけたいです。合併後も今年度内は事業を引き継ぎ、成果は、来年度以降の新しい地区計画づくりに反映していきたいというものです。

自分たちの住む地区をどんな地域にしていきたいか、地域に住む皆さん自身で考えていただきたいと思えます。支援する職員も配置して、区長会や自治公民館など地域の方々と相談させていいただきながら、事業を進めていきたいと計画しています。仕組みは用意されますが、大切なのは住民や職員など、かかわる人々です。ぜひ、制度を十二分に活用して、より元気な地域をつくっていただきたいと切に願うものです。

勝沼町長 三枝 武人

発行/勝沼町役場 編集/まちづくり推進室
〒409-1392 山梨県東山梨郡勝沼町勝沼756-1

TEL 0553-44-1111 FAX 0553-44-0001
E-mail: kouhou01@town.katsunuma.yamanashi.jp

みんなのアイドル ちびっこフォト

かわいい瞳 みんな元気

お誕生

地区	氏名	保護者
勝沼	上矢 空	洋彦・民江
"	古屋菜乃花	勝・里和
"	若杉 優輝	裕一・俊子
小佐手	小串菜々美	章一・美恵
"	横張 友樹	充・奈々
休息	三科 颯太	浩仁・久美

ご結婚

地区	夫	妻
下岩崎	草塩 正国	佐々木僚子

おくやみ

地区	氏名	年齢	届出人
勝沼	大嶋 行雄	84	大嶋 忠治
"	武藤ハマ江	65	武藤 文雄
"	佐藤 房子	84	佐藤 武夫
等々力	小林 為好	92	小林 松好
小佐手	内田サトヨ	98	内田 定男
山	小倉 英子	68	小倉 弘
休息	飯島 実	72	飯島 洋子
"	青柳 昇	35	青柳真奈美

平成17年4月1日～4月30日届出(敬称略)



おだぎり 小田切 舞ちゃん (1歳) (上岩崎)
食欲旺盛で、おんぶがだいすきな舞ちゃん。これからも元気ですくすく育ってねと、父・準さん、母・貴美子さん。



のだたいよう 野田大洋くん (3歳) (勝沼)
野球がだいすきな大洋くん。心もからだも大きく元気に育ってねと、父・一寿さん、母・直美さん。



きのせ いこい 木之瀬 憩ちゃん (8カ月) (等々力)

いつも笑顔で、みんなの心を和ませてくれる憩ちゃん。元気でやさしく、思いやりのある女の子になってねと、父・寛さん、母・美紀さん。

ちびっこフォトでは、元気なお子さんの写真を募集しています。ご両親のコメントを添えて広報担当までお申し込みください。

お詫びと訂正 「広報かつぬま」四月号五ページに記載しました「平成十七年度・企業会計」ぶどうの丘・事業費用につきまして誤りがございました。正しくは、十億九千二百七十六万円です。お詫びして、訂正いたします。